

## 【森ハブ PF】ワーキング・グループ開催報告

【森ハブ PF】ワーキング・グループ（以下 WG という）の活動について、以下の通り報告します。

表 1 活動の概要

WG 名称	森林の生物多様性調査分析技術 WG	
運営責任者	氏 名	門 裕一
	所 属	日立建機株式会社
活動概要	名 称	第二回森林の生物多様性調査分析技術 WG ～森ハブは生物多様性調査分析技術領域に貢献可能か～
	年月日	2025 年 2 月 28 日
	場 所	オンライン会議

表 2 参加者

氏 名	所 属
氏 名 非公表	日立建機株式会社
	日立建機株式会社
	国際航業株式会社
	株式会社アルボナウト
	株式会社アドイン研究所
	株式会社スペースシフト
	株式会社スペースシフト
	NEC ソリューションイノベータ株式会社
	北海道下川町
	野迫川村役場
	林野庁 森林整備部
	林野庁 森林整備部
	林野庁 森林整備部
	一般社団法人日本森林技術協会
	一般社団法人日本森林技術協会
合計人数	15 人

表 3 議事次第及び協議内容等

議 事	協議内容等
1. ご挨拶	WG 担当の挨拶と第一回の振り返り： <a href="#">森ハブ専用 HP の WG ページ活動報告</a> 参照
2. 令和 6 年度林業イノベーション現場実装シンポジウム結果共有	2 月 5、6 日開催のシンポジウム情報共有： <a href="#">森ハブ専用 HP のイベント情報</a> 参照
3. 議論：森ハブは生物多様性調査分析技術領域に貢献可能か	前回の生物多様性調査分析技術の内容、事例紹介を踏まえた議論を展開。  林業の施行結果が生物多様性に与える影響を調査分析できないか。林業機械の稼働データ（どの木を切ったか）を生物多様性のデータに反映

	<p>する仕組みができれば、間伐と生物多様性の関係性も見えるようになるのではないかと。</p> <p>間伐をすると森林に光が入って下層植生が豊かになる。森林に人が入って手入れをすると土のやわらかさも変わる。切った木を搬出するのかわからないのかなど、間伐のやり方が生物多様性にどのような影響が出るのかわかるとよさそう。</p> <p>ベテランの方の勘所が可視化できるか。</p> <p>広葉樹の二次林における里山の手入れ、薪や炭用の木材や腐葉土をとるなどの作業の生物多様性への影響もわかるとよい。アルボナウト社では枯死木も生物多様性の指標としている。水辺環境分析も。流域水文水質モデル SWAT (Soil and Water Assessment Tool) と生物多様性の関係性などもわかるものか。</p> <p>施行履歴から生物多様性への施業の影響がわからないか。間伐などの施業履歴の内容によって、生物多様性の価値が変化し、育っている木の品質が異なるようであれば、よりよい木を育てるためのきっかけになるのではないかと。そうなれば地域毎のブランド化もやりやすくなる。</p> <p>奈良県では人工林を針広混交林にして、森林の生物多様性などの機能を高めている。伐採木はバイオマスにしている。</p> <p>→資料①②参照 一般社団法人“more trees”と協定を結び取り組んでいる森づくり。 →<a href="#">more tree ホームページ</a> 生物多様性を高めていると言いつつも指標がなく可視化ができていないのが悩み。</p> <p>環境価値の可視化では、主に保全活動の Before ⇔ After のギャップが価値になるので、取り組まれている森林の価値の可視化は早めの着手がよさそう。過去に遡ったデータを扱うこともできるか。</p> <p>北海道では率先して高性能林業機械を活用してスマート林業を推進している。</p> <p>→<a href="#">シンポジウム動画</a> 施業データと生物多様性データの連携ができるとういのではないかと。 重機やそのアタッチメントに生物多様性を可視化するためのセンサーを取り付けるなどすれ</p>
--	---

	<p>ば、調査分析技術に貢献できるのでは。</p> <p>高い品質の木を効率よく生むことができる森という面では世界的ベストセラー『<a href="#">マザーツリー</a>』の話を思い出した。(著者は米『タイム』誌が 2024 年の「<a href="#">世界で最も影響力のある 100 人</a>」に選出)</p> <p>これまでの森林計測技術に加えて生物多様性の調査分析技術を林業に活用すれば、よりよく高い品質の木を育てることができ、よりよい林業ができることにつながられるのではないかと。</p>
4. まとめ	<p>森ハブは生物多様性調査分析技術領域に貢献可能か：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの林業の施業情報と生物多様性調査分析技術を連携させれば、森林の生物多様性を損なわず、むしろよりよくしながら間伐などの施業を行うことができる可能性がある。</li> <li>・どのような生物多様性の森林が、より高い品質の木材を産出するのかわかれば、木材のブランド化ができる。日本の木材の品質を高めることで市場を活性化できる可能性がある。</li> <li>・林業の現場で使われている重機などに生物多様性調査分析用のセンサーを搭載することでよりよい調査分析に貢献できる可能性がある。</li> </ul> <p>次回は 3 月下旬開催予定。      なお、次回を待たず参加者と具体的に情報交換が必要な場合には担当：門がおつなぎするので個別にご連絡ください。</p>

参考：令和 6 年度（2025 年度）「森林の生物多様性調査分析技術 WG の活動計画」

【WG 名称】森林の生物多様性調査分析技術

【設置目的】社有林を持つ企業や、森林保全を行っている企業の TNFD レポート等にも影響する生物多様性の評価のための調査、分析に関する技術やソリューションを扱う WG である。

副次的にはなるが、評価の結果、森林の生物多様性を改善するような施業が増えることで、林業が活性化する等、林業業界にもプラスの影響を与えられる可能性を持っていると考える。

その可能性を大きくするためにも、生物多様性調査分析技術についての WG にて、企業の TNFD 対応を推進するきっかけやそれらの技術領域の活性化を行うとともに、OECM の推進として自然共生サイトへの登録等にもつなげていく。

【開催計画】

第一回：生物多様性の調査分析技術を持つ企業の取り組みについて…1月下旬開催済

1. ご挨拶
2. 森ハブとは
3. 森林の生物多様性調査分析技術 WG について
4. 生物多様性調査分析技術をお持ちの企業紹介
5. 事例紹介（TNFD、自然共生サイト対応等）・質疑応答
6. まとめ

第二回：森ハブは生物多様性調査分析技術領域に貢献可能か…2月下旬開催済

1. ご挨拶
2. 令和6年度林業イノベーション現場実装シンポジウム結果共有
3. 議論：森ハブは生物多様性調査分析技術領域に貢献可能か
4. まとめ

第三回：WGの活動を通して林業業界に貢献できるか…3月下旬開催予定

1. ご挨拶
2. 活動内容の振り返り
3. 議論：WGの活動を通して林業業界に貢献できるか
4. まとめ

以上